

高等学校における「歴史的思考力」を育成する 授業作り

学籍番号 (209322)
氏名 (中川 匠)
主指導教員 (糸井川 孝之)

1. 歴史的思考力について

「歴史的思考力」とは長年、歴史教育において育成が求められている力であるが、現行の高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）においても具体的な定義付けはされていない。では「歴史的思考力」とはどのような力なのだろうか。筆者は様々な先行研究から「歴史的思考力」を以下のように定義した。

- ・世界史、日本史の両方の視点からこれまで辿ってきた歴史を学び、因果関係を踏まえ歴史を考察する力
- ・歴史で学んだことを生かし、これからの諸課題についての解決する方策を考え、これからの時代を想像し作り上げていく力

この定義や池尻・山内（2012）の研究を元に「歴史的思考力」の育成をする授業作りを行なった。

2. 基本学校実習での授業実践について

基本学校実習（2020 年実施）では、「高校歴史におけるジグソー法を用いた対話型授業づくり」をテーマに、自ら学んだことを他者に教える授業作りを目的に実践を行なった。ジグソー法を選んだ理由としては、高い学習定着率を得るためには自ら学んだことを他者に教える活動が必要であり、ジグソー法を用いることで、この活動を授業に組み込むことができると考えたからである。結果としては、話し合いは活発的に行われ、活気的な授業を作ることにはできたが、主題設定や活動内容が曖昧だったため、学んだことを教え合うのではなく、資料などから読み取ったことを写す作業になってしまっている生徒も見られた。この実践の結果から、基本学校実習では教え合うことを筆者自身が意識し過ぎてしまい、方法論（ジグソー法）に拘りすぎるあまり、主題設定などが曖昧になってしまった。この反省を生かし、次の発展課題実習では、研究テーマを「歴史的思考力」の育成と定め、「主題設定を明確に行い」、「授業を終えた後に生徒にどんな力がついているか」ということに重きを置いて授業計画を考えた。

3. 発展課題実習での授業実践について

発展課題実習（2021年実施）では、先に述べたように研究テーマを「高等学校における歴史的思考力を育成する授業作り」に変更し、授業実践を行なった。範囲は昨年度と同様であったが、授業プリントから作り直し、教材研究を行なった。今回の実践では、池尻・山内（2012）の研究を参考にし、5つ示された「歴史的思考力」の中から歴史的思考力「（1）史料を批判的に読む力」と「（4）歴史的解釈を批判的に分析する力」の2つの力に限定し、育成を試みた。題材は「ナウマン・鷗外論争を読み解く」を用いて、授業実践を行なった。

結果としては、単純な暗記に終わることが多い文化史学習において、生徒自身が考え、お互いに考えを共有する授業を作ることができた点については一定の成果を得ることができた。また今回の授業実践の目的であった「歴史的思考力」を育成する授業は一定程度作ることができたが、「歴史的思考力」の測定などに関しては、課題が残った。

4. おわりに

本実践課題研究では、池尻・山内（2012）の研究を元に「歴史的思考力」の育成を試みた。この実践で、得た課題と成果を踏まえ、自身が定義した

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・世界史、日本史の両方の視点からこれまで辿ってきた歴史を学び、因果関係を踏まえ歴史を考察する力・歴史で学んだことを生かし、これからの諸課題についての解決する方策を考え、これからの時代を想像し作り上げていく力 |
|--|

について、さらに研究を続け、高等学校の社会科の授業の中で継続的に実践していきたいと考えている。